

両大戦間における生活改善思想の形成と展開（第2報）

その家庭経営思想について（2）時間

○佐藤裕紀子* 奥田都子** 岡部千鶴***

（*お茶の水女大, **共立女大, ***久留米信愛女学院短期大学）

【目的】本報告では第一報に引き続き、生活改善をめぐる言説の中でも「時間」に関する記述に着目した。改善の対象となった「時間意識」の実態と生活改善論における問題意識、具体的提言と方策とを明らかにし、社会的背景と関わらせながら考察を加える。

【方法】第1報と同じ。

【結果】①生活の合理化が提唱される中、「時間」をめぐる日本人のそれまでの生活様式と意識の改善が奨励された。②「時間」に関する記述に見られる特徴としては、生活が不規則で計画が無いなど日本人の「時間観念の欠如」が指摘されていること、その改善意識は「時間観念」の発達した欧米諸国との対比から生じている例が散見されること、改善によって志向されている生活は主に「能率」を重視した生活であること、問題の指摘にとどまらず時計を正確に保つことや訪問時間を明確に設定することなど、身近な改善が提案されていること、などが挙げられる。③「時間」に関する直接的な記述以外でも、出来合い服の利用や迷信に囚われた生活からの解放、人手の浪費を排除し得る生活の簡易化など、「能率増進」につながる具体的な提言がなされている。④生活が社会的な繋がりの中で成立している以上、「時間」をめぐる改善は社会的な合意のもとに協同して実施されなければならない。④生活が社会的な繋がりの中で成立している以上、「時間」に関する改善意識は生活改善が運動として展開される必然性につながった。